

第9回富良野市総合戦略有識者会議 議事録

■開催日時 令和元年10月24日(木) 午後3時30分～午後5時30分

■開催場所 富良野市役所 大会議室

■出席者 <委員> 北会長、荒木委員、鈴木委員、菊地委員、松村委員
佐藤委員、中里委員、近藤委員、青山委員、平間委員
飯沼委員、西本委員、藤田委員

(計13名)

※欠席委員 加茂委員、鎌田委員、竹森委員、原田委員

(計4名)

<事務局> 稲葉総務部長、山下市民生活部長、若杉保健福祉部長
後藤経済部長、小野建設水道部長、亀淵教育部長
西野企画振興課長、入交企画振興係長

1. 開会(午後3時30分)

2. 市長あいさつ

- ・新たな総合計画、総合戦略の策定に向けて、これまでの経過や今後の取り組み方を報告する中で、委員皆様のご意見をいただきたい。
- ・総合計画、総合戦略を考える上で、人口規模は非常に重要であり、地域の主要産業や市民生活にも大きな影響を与えていると考えている。
- ・総合戦略は策定から5年経過した中で、次の段階に向けて、より効果的な方策を模索していかなくてはならない。
- ・委員皆様のご意見をいただき、実りある、未来へつながる議論をお願いしたい。

3. 新委員の紹介

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

4. 議題

- (1) 第5次総合計画の総括と新たな総合計画に向けて
- (2) 富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について
- (3) 地方創生推進交付金の検証について
- (4) 総合計画と総合戦略の期間連動について
事務局より資料に基づき一括説明。

○質疑応答・意見交換

【荒木委員】

- ・富良野市民の総数について、住民基本台帳によると平成26年1月1日現在と平成31年1月1日現在を比較して、1,667人の減少、7%の減少となっている。
- ・2015年の国勢調査を元にした社人研予測では、2015年実績と2020年予測を比較して1,340人の減少、5.8%の減少となっている。
- ・住民基本台帳と国勢調査による社人研予測を比較すると、時期に若干のずれはあるが、2020年予測より大幅に減る可能性がある。
- ・2010年と2015年の国勢調査を元にした実績及び社人研予測から、2015年における予測と実績を比較すると、差違が△363人、△1.6%であった。
- ・社人研予測による減少率は大きくなる傾向にあり、今後の国勢調査の結果を考えると、2045年の富良野市の人口総数は12,000人から12,500人程度になるのではないかと。
- ・5歳階級毎の人口比較を見ると、実際に予測より0から4歳、30から40歳の減少率が高く、特に女性は25から34歳の減少が大きいため、出生数に影響を与えていると考えられる。
- ・こうした状況を考えると、この有識者会議は月に1回ペースでデータ分析をしていく必要があるのではないかと。

- ・人口総数や転入転出者数をどうしていくのか、それに対しどういった施策を打っていくのか、きちんとした数値目標やKPIを設定する中で考えていく必要がある。
- ・データを読み取る中で方策を考え、富良野市は何とかなっている状況をつくっていかなければならない。

【北会長】

- ・議論の場、取組みの方法、開催の内容等については検討させていただきたい。

【中里委員】

- ・前回の有識者会議では、日本語学校や観光関連専門学校の話が出されていたが、東川町では各世代に向けた取組みが実践されており、富良野市の弱い部分に感じるため、次期総合計画や総合戦略では各世代に向けた取組みを行っていく必要があるのではないか。

【後藤経済部長】

- ・日本語学校に対する富良野市の考え方については、雇用や教育、生活等の横断的な取組みが必要であり、外国人共生からも事例等を調査する中で検討していきたい。

【松村委員】

- ・日本全体の人口は減るので、人口密度を減らさない考えを持っておく必要があり、社会インフラの経費を抑えていかななくてはならず、人口減少を受け入れた中でどんな施策が必要か考えていくことも大事ではないか。
- ・全国的に ICT の導入を進めているが、活用することも大事であるが、コミュニティが維持されている状況であれば、ICT 導入により田舎の良さがなくなることは避けた方がよいのではないか。
- ・健康寿命を延ばし、医療費が抑制され、高齢者を元気にし、本人や地域が幸せになるような取組みの視点も必要ではないか。
- ・東川町では、写真甲子園により地元の掘り起こし、日本語学校での高齢者活躍の場、君の椅子プロジェクトでの来る人のフィルタリングなど、複合的な取組みを行っている。
- ・5年間で効果を出す施策と長期レンジでの誇りや魅力づくりの施策を合わせて取り組んでいく必要があるのではないか。

【北会長】

- ・人口が減っていく中での施策、誇りや魅力ある施策について今後検討していきたい。
- ・ICT の活用は住民が納得するものでなければならず、活用として考えられるのは、健康づくりのデータ化による健康度の検証を行い、健康寿命を延ばし、医療費にも反映できないかと考えている。

【西野企画振興課長】

- ・ICT の活用について、行政内部では業務改善、市民サービスではスマートシティ、この2つで何ができるか考えているところである。
- ・また市では、ICT 活用に向けたサウディング型市場調査を行い、全国5社から提案があり、11月に市と企業とで対話を行う予定である。

【松村委員】

- ・ICT の活用においても、国主導ではなく、富良野オリジナルの考え方が必要である。

【西本委員】

- ・総合計画及び総合戦略の策定に向けては、時代が変化している中、若い世代の意見を取り入れていくことも大事である。
- ・若い世代が富良野で起業し、活躍している状況をまちづくりにも活用していくことも必要である。

【西野企画振興課長】

- ・総合計画の策定に向けた取り組みとして、10月20日に市民ワークショップを開催し、中学生から80代までの100人が参加した。また企画運営は30代から40代前半の方々を中心となり開催し、12月にはコアメンバーによる議論を行い、そこで出された多様な意見をまちづくりに活かす取り組みを行っている。
- ・若手経済人による懇談を3月と6月に実施し、今後の定期的に行う予定であり、若手の掘り起こしに取り組んでいるところである。

【近藤委員】

- ・総合戦略を1年延長するとのことであるが、数値目標やKPIが乖離している状況であれば見直す必要がある。
- ・転出入者の年齢構成や理由などの状況を把握しているのか。
- ・労働力不足の中、高校に専門学科をつくり、働き手を確保することも必要ではないか。

【西野企画振興課長】

- ・転出入者の5歳毎の異動状況は把握しており、20代が多く転出入している。
- ・転出入者の異動理由については、平成30年1月1日から12月31日に異動した方を対象にアンケート調査を実施し、仕事の都合で異動した方がほとんどであり、その他理由の方の分析を進めているところである。

【亀淵教育部長】

- ・富良野緑峰高校では来年度、1間口減り学科が統合される。観光を担える人材が必要なことから、授業の中で観光に関する科目を取り入れる予定である。
- ・富良野市内の高校が定員割れしている状況にあり、今後の富良野市内の高校のあり方を考える検討会を組織し、進めているところである。

【荒木委員】

- ・富良野のため、子どもたちのために、必要な教育をどう進めていくのかを考える中で、富良野の高校に行っても豊かな人生を送れるような取り組みをつくっていかなくてはならない。
- ・富良野市内の企業では、パソコンがない事業所は沢山あり、AIやIoT等のICTに対応できない状況にあるので、人口減少速度がゆっくりと進む対策をとっていかなくてはならない。
- ・転出者が多い状況にあるため、富良野市民の誇りや愛着をもう一度つくっていく必要がある。

【藤田委員】

- ・転出入者アンケートの調査結果は公表されるのか。
- ・人手不足は如実に現れており、人がいないから店を休む、やめるところもある。ホテル等の新たな企業進出はあるが、人手は確保できるのだろうか。
- ・人手確保のためには、住宅・医療・教育などを多面的に考え、総合的な取り組みが必要となってくる。
- ・転出入者のアンケートは、市民課窓口で行い、継続的な分析からまちづくりに活かす必要があるのではないか。

【西野企画振興課長】

- ・転出入者アンケートの内容は、属性や異動理由など約10項目を行い、年内に分析作業を進め、年度内に公表していきたい。

【北会長】

- ・労働力対策については、農業や観光に関わらず市内全体の問題であり、市役所の横断的な取り組みから対策を図っていきたい。

【飯沼委員】

- 人を増やすことって何だろう、安心して暮らせる町って何だろう、富良野らしさって何だろうと考えている。富良野を住みたくなる町・安心できる町・住んで良かったと思える町にするために、抽象的なことを具体的にしていく必要がある。
- 富良野圏域の中で富良野市は施策的に優しくないと言われており、子育てや医療費など住んでいる人を大事にする取組みが必要ではないか。
- 住んでいる人たちのパワーを活かすまちづくりが今後の施策にも必要ではないか。

【菊池委員】

- 富良野の町で生活していく上で、仕事や教育などより多くの選択肢がある状況が必要ではないか。
- 組織として ICT 化は図るが、人でないと対応できない部分があり、人材不足の部分は外国人の活用で補っている。そうした中で、外国人の受入環境を整備することにも力を入れていく必要があるのではないか。

【北会長】

- 北の峰地区の地域懇談会においても、外国人との共生の意見をいただいたので、一緒に生活できる環境について検討していきたい。

【鈴木委員】

- 観光においてホテル開業や民泊が増えているが、働き手がない状況である。
- 働き手が住める状況や環境が必要である。

【北会長】

- 雇用と同時に住環境の整備は大事と考えている。

【佐藤委員】

- 人口減少は避けて通れないので、経済活動を維持するために、人口が減ったときにどうするのかを考えていかななくてはならない。
- 非労働者であった主婦や高齢者の働きやすい環境整備を考えていかななくてはならない。

【青山委員】

- 若い世代が家を建てる時、町のサービスやインフラは判断基準となるのではないか。

【平間委員】

- 若い世代の意見を聞いていく必要がある。

【北会長】

- 総合計画や総合戦略、富良野の将来など沢山のご意見をいただいた、これらを参考に今後の行政運営に努めていきたい。

5. その他

- 特になし

6. 閉会（午後5時30分）